

## 平成30年台風21号を踏まえた課題について

## 1 港湾施設被害の情報収集について（アンケート 11機関）

## ■ 災害時に必要な情報（複数回答あり）

回答	回答数	その他
航路の情報	9 機関	沿岸域の浸水被害、臨港道路の通行止め状況 岸壁へのアクセス、電力、通信等周辺状況等被害全般
岸壁の使用可否情報	10機関	

## ■ 必要な港湾施設の被害情報の収集方法（複数回答あり）

回答	回答数	その他
管理者へ直接問い合わせた	7 機関	TV・ニュース、沿岸部設置カメラ映像 会員からの報告、目視情報 社員による現地調査及び利用者へのヒアリング
港湾局ホームページ・ インターネット	2 機関	
関係会社に聞いた	8 機関	

▶ 台風21号による被害情報について、航路及び岸壁の状況だけでなく、道路やその他の全般的な被害情報が必要でBCP構成員の多くは、管理者及び関係会社へ被害情報を問い合わせた。

台風災害時においても、初動時の対応や緊急物資輸送、幹線貨物輸送への対応を迅速かつ的確に行うため、港湾施設被害の情報共有が必要

# 平成30年台風21号を踏まえた課題について(2)

## ■大阪港BCP「高潮災害編」を作成する場合の特に注意すべき事項(アンケート)

番号	回答意見
1	事前対策ができる時間を有効に活用する あらかじめ港湾管理者に国の職員(リエゾン)を派遣する
2	台風一過後の緊急点検を港湾管理者や関連事業者と共有する仕組み
3	執務室が停電・浸水した場合の機能回復までの代替や補完機能の位置づけ
4	台風の場合、比較的、事前(気象)情報がある。 万が一に備える心づもりや、早めの退避・避難を念頭にしたBCPを作成することが、被害軽減につながる事を念頭に作成することが大切。
5	コンテナの流出防止策
6	コンテナの流出や施設被害復旧対応の優先順位(大阪港の航路やバースの優先順位)の調整及び大阪湾BCPとの連携
7	台風第20号、21号等の台風被害を検証し、今後のBCPに活かしていったらどうか。 浮棧橋、コンテナの流出により、水路の確保が困難な状況であった。また、漂流物の衝突、沈没が生じれば、2次災害を発生させる可能性があった。そのため、自然災害時に迅速に対応できる仕組みが必要。